

sikkens

2nd-repair process オートベースプラス再補修要領

FOR PROFESSIONAL USE ONLY

オートベースプラス再補修時のリフティング（ちぢみ）予防方法

オートベースプラスにオートクリヤー各種を塗布した塗膜を再補修する場合は下記の方法で適切に処理を行って下さい。

再補修を行う前の注意点

- ① 再補修を行う箇所を使用したクリヤーの完全硬化時間後、更に 60°C/1 時間程度の強制乾燥を行って下さい。
- ② 再補修を行う箇所のダメージがオートベースプラス層まで達している場合は、ドライ P500 又はウェット P1000 にてサンディングして下さい。
- ③ ダメージ箇所をオートベースプラス層まで研ぎだした場合は、以下のいずれかの方法で適切に再補修を行って下さい。

方法 A オートベースプラス層の露出が直径約 1cm 以下の場合

スプレー圧力 0.5~1bar 程度で、各コート間はエアブロー及びタッククロスをし、充分フラッシュオフタイムを取りながらウェットコートになることを避け、オートベースプラスを塗装して下さい。

方法 B オートベースプラス層の露出が直径約 2cm 以下の場合

スポットシーラーDTM（T.D.S S2.01.01a 参照）を、各コート間充分にフラッシュオフタイムを取りながら 2-3 回塗布して下さい。（強制乾燥不要）
20°C /15 分以降に必要であればドライ P500 もしくはウェット P1000 でサンディングし、方法 A の要領でオートベースプラスを塗装して下さい。

* オートベースプラス原色（Q070 に容量比で Q065 を 3:1 で配合したものを更にニュープラスレデューサーで 100:50 に希釈して従来のオートクリヤーインテリアーの代替としても使用することも出来ます。

方法 C オートベースプラス層の露出が直径約 3cm 以下の場合

オートサフェーサーラピッド（T.D.S 3.2.28 参照）をノンサンディング仕様で 2-3 回、各コート間に充分フラッシュオフタイムを取りながらライトコートし、強制乾燥は行わずに必要であれば、20°C /15 分以降にドライ P500 もしくはウェット P1000 でサンディングし、方法 A の要領でオートベースプラスを塗装して下さい。

方法 D オートベースプラス層の露出が直径約 3cm 以上の場合

広範囲でオートベースプラス層が露出した補修箇所は充填が必要となりますので、カラービルド（T.I.S 3.2.18 参照）もしくはオートサフェーサーラピッド（T.D.S 3.2.28 参照）を塗布し、指定された時間で強制乾燥して下さい。塗布の際は極端なウェットコートは避けて下さい。
サンディング後、方法 A の要領でオートベースプラスを塗装して下さい。